

## 症例数と治療（平成 26 年）

平成 26 年の手術症例数 452 例、全身麻酔手術 297 例。内訳は心臓大血管外科 78 例（開心術 67 例）、呼吸器外科 66 例、血管外科 297 例です。

高齢化社会を反映して心臓血管手術症例も高齢化。

胸部大動脈瘤や腹部大動脈瘤に対してはステントグラフト内挿術の低侵襲手術を実施しています。また、呼吸器外科においても開胸しない胸腔鏡下手術を施行しています。

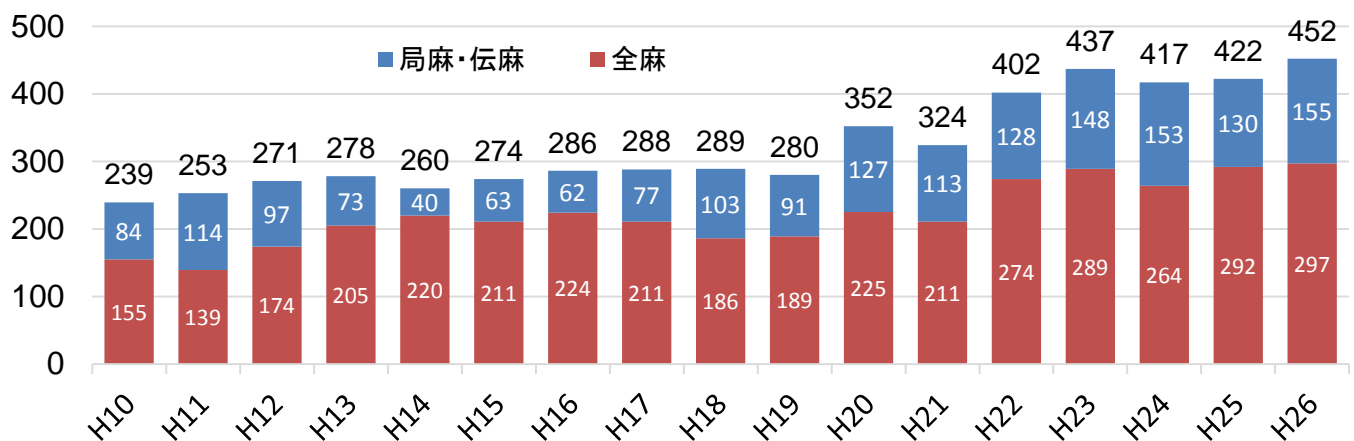
術前状態の良好な待機手術症例では術前から自己血貯血を行い、心臓手術でも無輸血手術が可能です。

Stanford A 型大動脈解離では、全弓部置換術を標準術式として根治性を高め、成績良好です。

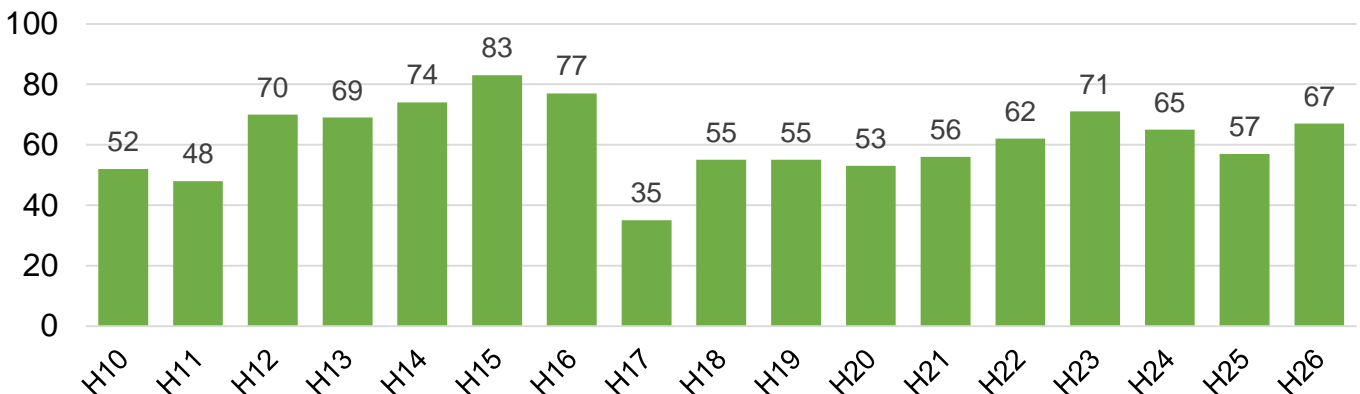
入院期間は、心臓大血管開心術 24 日、ステントグラフト内挿術・呼吸器外科・末梢血管手術 10 日、下肢静脈瘤手術 5 日でクリティカルパスに従った入院治療を行います。

バスキュラーアクセス形成・下肢静脈瘤硬化療法はディサージェリーで入院不要、随時可能です。

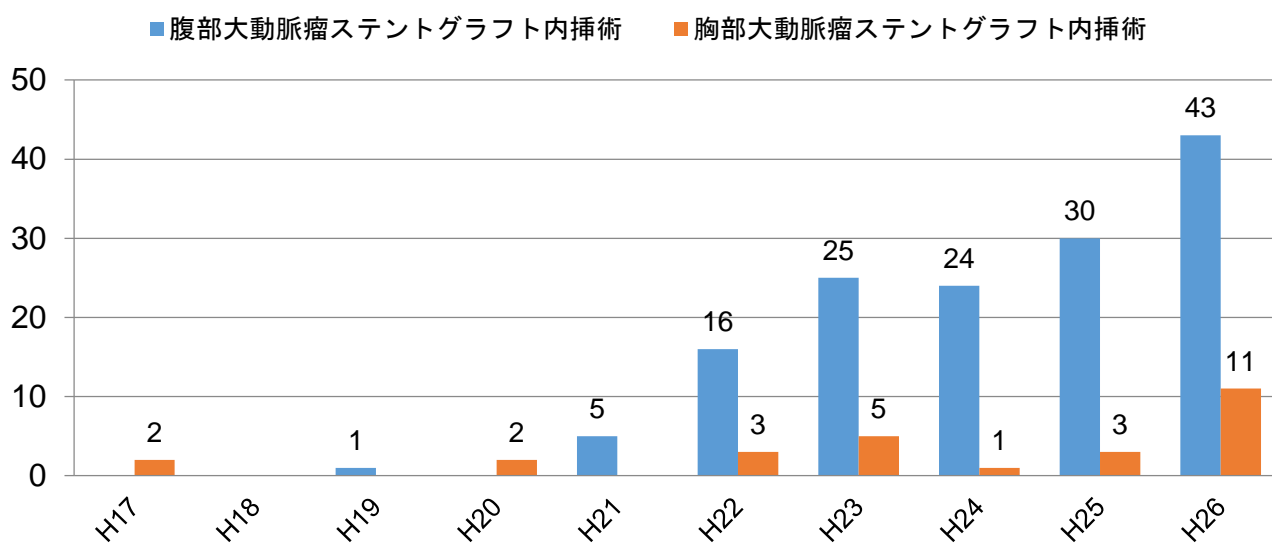
### ● 心臓血管外科・呼吸器外科手術数の年次推移



### ● 心臓血管外科・開心術数の年次推移



## ● 平成 26 年までのステントグラフト内挿術症例数



## ● 平成 26 年までのバスキュラーアクセス形成症例数

